

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

4→6・45通信の3号をお届けいたします。これも、東日本大震災の復興支援活動に携わっておられる皆さまが関心を寄せてくださり、多くの方が「私たちはこんな活動をしています」と原稿をお送りくださったおかげです。震災の最初から炊き出しなどで活動を始め、今も続けてくださっている北仙台教会、また、元寺小路教会。福島・野田町教会からは、仮設での交流の喜びを伝えてくださいました。県南の4教会との交流会のご報告は八木山教会からです。

避難所へのコーヒーサービスから始まった 寄り添い・支え

北仙台教会 村山晶子

避難所へのコーヒーサービスから、高砂と鶴巻の仮設住宅へは毎週、扇町の仮設住宅へは月2回訪問させていただくようになり、もうすぐ2年になります。

最近の仮設の皆様の状況は、まだまだ安住の住まいを求めるまでにはほど遠く、今までにない不安を抱いているように思われます。

4 仮設合同お花見会

そこで私たちは、4月中旬に少しでも楽しんで頂けたらとの想いで、4つの仮設合同のお花見会を企画しました。お花見会の実現には準備段階から仮設の方々積極的に関わっていただき、私たちと一緒に、その計画を実現することができました。

今年の仙台はまだ寒く、春にはまだ遠い感じでした。残念ながら桜は蕾でしたが、それにも負けず歌や演芸などが飛び出し、参加した約80名で大笑いしながら楽しんだひとときでした。

4つの仮設が合同で開催したお花見だったため、思いがけず以前の知り合いと再会できた方もいらっしやり、帰りには皆様笑顔で「楽しかったね。またね。」と別れを惜しんでいました。

私たちも皆様の笑顔に出会え、これからも仮設の方々の想いを大事にしながら続けさせて頂ければと、北仙台教会の支援スタッフ皆で確認いたしました。

毎日のチャリティーカフェ

北仙台教会では震災以後、教会信徒館でチャリティーカフェ（喫茶室）を13:00～15:00まで開いております。お客様は多い日少ない日、色々ですが、誰でも入れる教会をめざし、これからも続けていきたいと思っております。

仮設訪問、そしてチャリティーカフェには、月に延べ70名位の方々の協力があり、また全国各地や北仙台教会信徒から今も絶えない多くの支援、そして何よりも色々な事情で直接参加出来ない方々の力強いたくさんのお祈りに支えられております。

今回の震災で、祈りの力の大きさと支えを、これほど感じたことはありませんでした。

その多くの人々と共に被災された皆様に寄り添うことが出来ればと思う今日この頃です。



お茶っこサロン

元寺小路教会 中村信忠

元寺小路教会は、宮城野区港南西公園仮設住宅と同区福田町南一丁目仮設住宅の2カ所の仮設住宅へのボランティア活動を始めて、今年の9月で2年になります。

年度の区切りである3月に撤退する他のボランティア団体が多い中で、仮設住宅の方から引き続き傾聴活動に来てほしいとの要望を受けています。仮設の方々のこの望みがある限り、私たちは「お茶っこサロン」を続けたいと思っています。



さて、スタートした頃のことを思い出すと、被災された方々にとって一生に一度あるかないかの余りにも衝撃的な予期せぬ惨事に放心状態であったことや、心身ともに傷を負っていたためか、大震災のことはあまりお話されることはありませんでした。しかし、震災から1年経過した2012年3月頃から、次第に心を開き、自分たちのことを話してくださるようになりました。私たちはその声に、心から耳を傾け、いくらかでも被災者の支えになればと思い、寄り添ってきました。

そのような中で、半年前頃から宮城野区港南西公園仮設住宅と同区福田町南一丁目仮設住宅とも、徐々に仮設住宅から出て行くことを考える人が出てきました。次第に、自宅をリフォームしたり、改築・新築したりと、自立する家族が増えてきました。すべてを失い、その中から再建するというエネルギーに、私たちは称賛と敬意とエールを送りたいと思います。

先日、札幌在住の方から、被災された方々へ箏を弾いてボランティアをしたいという連絡が入りました。メンバーは女性3人。北海道からフェリーで来てくださり、港南西公園仮設住宅の談話室に午後1時頃到着し、すぐに準備をして箏の演奏が始まりました。演奏時間は30分ほどでしたが、仮設の方々は全員心をひとつにして聴いてくださいました。最後の曲を全員が合唱して締めくくり、演奏後は記念撮影をし、コーヒーを飲みながらの歓談では、笑いが絶えず楽しい時間を過ごしました。演奏者3人は、私たちの方が逆に元気をいただきましたと感激していました。また演奏に来たいということで、再会を約してお別れをしました。

港南西公園仮設住宅も福田町一丁目仮設住宅もともに、12月にはささやかながらクリスマスパーティーをしました。教会からはケーキやお菓子を提供し、ビンゴゲームでは賞品をプレゼントし、和やかなうちに楽しいひと時を過ごしました。

福田町一丁目仮設住宅では、5月10日に年配の夫婦の方がマジックをして喜ばせてくれました。夫婦息のあった手品に、感嘆の声を上げる方あり、一方では、なんとかして種を明かそうと必死に見ていた方がおられたのが印象的でした。



また最近仮設の方々が、手作りの漬物やお菓子などを持参して、逆に私たちのご馳走になることがしばしばあります。そのような中で被災者の方々が自立なさることは嬉しいことですが、1人、2人、3人と自立して仮設から去っていかれる方がいることは寂しいことでもあり、複雑な気持ちです。しかし全員が自立していかれることを願いながら、お茶っこサロンを続けて行きたいと思っています。

「交わることの喜びと感謝」

野田町教会 チョン鄭 ソンイン盛仁 (阿部 友香子)

6月21日(金) ふれあい茶の湯の宮代仮設集会所に参加しました。今回参加したことを皆さんと分かち合いたと思います。

天候は暑くもなく、とても過ごしやすい良い天気でした。松木町教会の外で「愛の支援グループ」・野田町教会・全国各地のボランティアの方々と一緒に歌をうたい、アヴェ・マリアの祈りと東日本大震災被災者のための祈りを唱え、宮代仮設に向かいました。

到着後、集会所で14時から私たちボランティアが自己紹介をしました。そして、鎌倉の雪ノ下教会のお2人による6月お誕生会の進行は、非常に楽しい会話から始まりました。とてもユニークで笑顔がいっぱいでした。私の隣にいるおばさんは、「2人はとても楽しくて日帰り温泉も一緒だったんだよ。またカリタスさんが来てくれて嬉しい。」と教えてくれました。



お誕生会のお祝いの歌をうたい、茶の湯が始まりました。心のぬくもりを感じる抹茶と会津の高田甘漬梅とチマキがテーブルを飾りました。高田梅は、松木町教会「愛の支援グループ」の鈴木さんが会津に足を運んだ時に、とっても美味しかったので、皆さんを思い出し、買って来たとのことでした。その心の温かさをいっ~ぱい感じました。

私は、韓国のチェジュトウ(済州島)から福島にお嫁に来ています。そこで、チェジュトウ(済州島)の食文化と島の暮らしを皆さんに紹介しました。また、言葉・文化・風習・食の違いは少しずつあるけれども、一番近い国で共通点がたくさんあることもお話ししました。例えば、梅干を食べる習慣はないけれど、家庭で梅ジュース・梅酒・梅酢等を作って飲んだり、料理に使用していることや、チマキは、形が違うけれど、きなこを付けて食べることを話しました。



また、文化の違いとして、韓国の生け花には、華やかな印象がありますが、日本の茶花には、落ち着き・静けさ・一輪花の魅力があり、人に安心感を与え、見たい、眺めたいという心にさせてくれることなどを話しました。

話が終わり、仮設の皆さんとボランティアの皆さんが、「お話、とっても良かったわよ。」と温かい声をかけてくださり、皆さんとの交わりが出来たことを神様に感謝です。

4月から野田町教会も松木町教会「愛の支援グループ」とかかわりを持つことが出来て、私たちは「主においてひとつ」を実感し、すべては神様に感謝し、祈り、寄り添い、学んでいきたいです。

「今日も元気！ きっと明日も元気！ そして、いつも笑顔でいられますように！」

私は、この言葉が大好きになりました。

忍耐は希望を生み、変化した私たちのため主の喜びが満たされるよう祈ります。

カリタスと共に「新しい創造」への歩み 県南4教会+1の合同ミサとパーティー

八木山教会 野田和雄

6月30日、大河原教会で県南4教会が、フィリピンから来たご婦人たちを迎えた合同ミサと、小野寺神父・ホセ神父の歓送迎会を行いました。私たち八木山教会も加わり、大河原教会の聖堂に入りきれないほどの人が集まり、聖歌が聖堂いっぱい響き渡りました。参加者はフィリピンから日本へ嫁いだ県南在住のご婦人たちや元寺小路教会・カトリック東京ボランティアセンターの山崎さんとカリタス原町ベースの前田さんも参加しました。

祭壇上は、小野寺・ホセ両神父と共に5名の若い侍者でいっぱいになっています。ミサの中の「主の祈り」は、隣の人と手をつないで日本語とタガログ語で唱えました。その時「主にあって私たちは一つ」と強く感じました。

ミサ後のパーティーは、各教会や関係者たちに協力支援のダルクを加え100名近くの会食になりました。フィリピンの家庭料理を持ち寄り、手作り料理主体のバイキングに皆大喜びでした。彼女たち14名は、日本語を勉強しながらヘルパー2級の資格を取得して、これから職場に積極的に参加していきます。また次にチャレンジする15名の予定もあるそうです。今回は合格のお祝いと受験のために協力したスタッフへの感謝のパーティーです。

小野寺・ホセ両神父様の自己紹介による公開引継ぎは、日頃よく知る私たちでさえ初めて聞く話が多くありました。私は小野寺神父様の4年間の宣教の歩みが県南4教会に確かに根づいている事に深く感銘を受けました。



参加5教会の合同パーティーは、日頃の4教会共同体の協力の歩みでもありました。県南の4教会は、一人の神父による共同司牧を受け入れ、ともに歩みながら、大震災によってフィリピンからやってきた隣人も加わりはじめています。

これから巨理教会はじめ県南4教会は、フィリピンからの協力者と共に新しい歩みがはじまります。引き継ぐホセ神父様と県南4教会に八木山教会も一緒に歩んで行けるのを喜び、ともに祈ってゆきたいと思っています。

これは仙台教区の「新しい創造」への確かな歩みであり、震災復興支援のカリタスジャパンの歩みでもあります。多くの方のご支援によりここまで歩んでこられました。これからも宮城県県南地区のご支援をお願いします。